

①自転車走行空間整備に係わる計画の評価・検証

【全体評価】

モデル地区における自転車走行空間の整備は断片的であり、連続性が確保されていない。その結果、安全性は向上したものの、利用者数に大きな変化はない。

【個別評価】

- ①自転車ネットワーク計画を作成した自治体は少数
- ②道路幅員に余裕のある空間だけを対象に整備する傾向
- ③整備を進める上で地域住民等との合意形成に課題

- ①自転車ネットワーク計画を作成すべき
- ②地域の交通特性等を踏まえ、整備路線、整備形態を適切に選定すべき
幅員が狭い場合の走行空間確保のあり方について検討が必要
- ③計画作成段階から幅広い関係者とのパートナーシップが必要

②自転車走行空間の設計の評価・検証

【全体評価】

モデル地区において、歩行者や自動車との分離の方法などについて、地域毎に様々な構造や設計で整備されており、安全性や利用のしやすさに課題がある。

【個別評価】

- ①歩行者や自動車との分離工作物や走行空間の幅員等が地域毎に様々な構造で整備され、安全性等に課題
- ②バス停等の特殊部において、自転車と歩行者の交錯の危険性
- ③交差点部において、自転車と自動車、自転車と歩行者の交錯の危険性

- ①自転車道、レーン等毎に分離工作物、幅員、路面等を安全、快適な構造にすべき
- ②バス停で歩行者との交錯を減らすなど、安全、快適な構造で設計すべき
- ③連続的に自転車と歩行者を分離する、自転車の直進性を確保するなど、安全、快適な構造で設計すべき

③自転車利用の総合的な取り組みの評価・検証

【全体評価】

モデル地区で整備された自転車走行空間について、利用のされ方に課題があり、期待された効果を発揮できない場合がある。

【個別評価】

- ①自転車道等で一方通行化が可能となった
- ②通行ルール・マナーが守られない、通行位置が守られていない
- ③荷捌き・駐停車車両や違法駐輪が走行の妨げになっている
- ④整備された自転車走行空間の利用者数に変化がない

- ①運用法や効果を理解し、現場で活用すべき
- ②ルールの周知やマナー向上の取り組み、分かりやすい案内等を実施すべき
- ③荷捌き車両等に対応した空間確保や規制・取締、駐輪場整備や放置自転車撤去を進めるべき
- ④自転車マップ作成やレンタサイクルなどの効果的な利用促進策を実施すべき



今後の方向性

自転車走行空間の利用を促進し、効果を最大限に発揮させるためには、

- ・ネットワークとして計画し整備する
- ・自転車走行空間を安全で快適な構造で設計する
- ・ルールの周知、駐車・駐輪対策、効果的な利用促進策の取り組みを総合的に進める必要がある。



このため、モデル地区における技術的な知見等を取りまとめ、安全で快適な自転車利用環境の創出を支援するためのガイドラインを作成・周知する。